

主題 土壌層の厚みの植生間比較					
背景と目的 土壌を掘ってみると、複数の層を観察することができる。植生が発達した場所では地表から順に落葉層（落葉や落枝が蓄積した層）、腐植層（土壌動物や微生物が多い層）、無機物と有機物の混合層などが見られる。一方、ほとんど植物が生えていない場所では様子が異なる。本実習は、さまざまな環境における土壌層の観察を行い、植生と土壌層の発達の関係を考察することを目的とする。					
小学校 理科	中学校 理科	高等学校 『生物基礎』	高等学校 『生物』	高等学校 『課題研究』	大学 一般教養
	○	○			
材料 スコップ、定規やメジャー、筆記用具 方法 ① 地表面から順に土を掘り、手で触り、各層の色、層を構成する物質の種類やサイズ（例：落葉、小さくなった落葉、粘土、小さい岩石の粒など）、湿り具合を記録する。また、各層の厚みを測定し、記録する。 ② 地表面の様子を観察、記録する。例：常緑広葉樹、落葉広葉樹、草、植物なしなど。植物が生えている場合は高さや、枯れかけなどの記載も丁寧にすること。					
予測できる結果 学校内で樹木や草本が生えている場所と植物がほとんど生えていない場所（例：グラウンドの外縁部）で比較すると、後者において落葉層、腐植層など発達していないことがわかる。					
提供者氏名 宮田 理恵		所属 神戸女学院中高部		問い合わせ先 E-mail miyata@kobejogakuin-h.ed.jp	